

徳島県環境審議会環境政策部会 会議録

1 日 時

平成24年12月21日（金）午後3時45分から午後4時30分まで

2 場 所

徳島県庁10階 大会議室

3 出席者

<委員>委員19名中11名出席

（1号委員：環境の保全に関し学識経験のある者、五十音順、敬称略）

近藤光男委員（部会長）、田淵桂子委員、近森憲助委員、津川なち子委員、
中央子委員、長尾文明委員、古本奈奈代委員、真坂美江子委員、
本仲純子委員

（2号委員：市町村長又はその指名する職員、五十音順、敬称略）

西岡幸美委員、榊藤敏子委員

<事務局>

柏木環境総局長、市原環境首都課長、島尾自然エネルギー推進担当室長
ほか

○会議次第

1 開会

2 議事

徳島県環境基本計画のあり方について

○部会における審議の進め方及びスケジュール

○計画策定に向けた基本的事項について

3 閉会

○配布資料

資料1 徳島県環境基本計画の審議スケジュールについて（案）

資料2 徳島県環境基本計画の審議の進め方について（案）

資料3 環境問題に関わる最近の動向（主な動き）

資料4 徳島県環境基本計画の見直しの方向性（案）

○議事内容

(事務局)

出席委員が11名で、委員数19名の過半数を超え、審議会運営規程の規定により会議が成立していることの報告

部会長の職務代理者に長尾委員が指名されたことの報告

(環境総局長)

あいさつ

(事務局)

配布資料確認

(部会長)

議題説明

(部会長)

それでは、部会における審議の進め方及びスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

会議資料1～2の説明

(部会長)

はい、ありがとうございました。事務的な話が中心でしたが、これについて、御質問・御意見ございましたらお願いいたします。

～質問・意見特になし～

- ・環境基本計画の審議を円滑に進めるため、環境政策部会の下に、環境政策部会委員数名で構成する「環境基本計画小委員会」を設置することを決定した。
- ・近藤部会長が、小委員会の委員として、近藤委員（部会長）、長尾委員（部会長職務代理者）、谷口委員、津川委員、唐渡委員、本仲委員の6名を指名した。

(部会長)

それでは、計画策定に向けた基本的事項について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

会議資料3～4の説明

(部会長)

資料3は情報をいただいたもので、資料4はこれからの議論につながるものでございます。それでは、御意見をいただきたいと思います。

(委員)

個別の計画がいっぱいあるので、一県民としては、個別政策を比較してはみないので、シンプルな方向で出してもらって徳島がどちらに向いていくかがわかれば一番ありがたい。高齢者にも非常にわかりやすい計画であってほしいとの理由です。全国的にみても日照が2番目、食料品の安全性もトップクラスで、これだけ環境が良ければ若い人が、子育てもしやすく、徳島に移住してこようというような人がいっぱいになるような方向性を持った計画であればうれしいなと思います。難しいことばかり言われても、高齢者がどれだけ取り組めるかということが一番懸念しているところでもあります。

(部会長)

計画書策定に関する御意見とゴールとして徳島が魅力的な地域になってほしいという意見でありました。計画書をつくるという観点からは、シンプルでわかりやすい、御発言をいただいたように、個別がいっぱいありますので、その辺を上手に整理していただいて、ストーリーが大事で、上位があつて、基本があつて、個別がある、その繋がりを持つ。脱線しますが、都市計画の基本計画が施策の具体計画になって、混ざってしまっているということがある。基本計画は基本的なことをしっかり書くことが大事である。

(事務局)

先ほどの総会でも御質問をいただいたのですが、計画が県民にわかりにくく、どのようにPRしているのかという御質問がありましたが、私どもとしましては、個別計画が環境の方でもたくさんできていますが、地球温暖化でも、新エネルギーでも戦略をつくりましたが、そういった中で、大きな太い幹になるような計画をつくれたらと事務局サイドとしては考えています。それがそのままホームページなどの媒体を通じて県民にお示しすることにより、それがそのまま共有感を得ていただけるようなわかりやすいものにした方が良いのでは、今の基本計画も色々な範囲で幅広く盛り込んでいるつもりですが、今となってみれば各個別計画の内容と重なっているところがあり、深く掘り下げていく部分は各個別計画にゆだねて、基本計画としては、県民の皆様と共有できる大きい太い幹としての計画とできないかという風に考えていますので、どういったものが良いか、それも含めまして御議論いただければと考えています。

(委員)

これまで、現在の計画もすごい長い時間をかけて作りあげてきたものであります。それが、現在どういう結果、検証の課題になっているのか腑に落ちてい

ない。それがそのまま、修正が必要だからよりシンプルにして幹を太くして県民にわかりやすいものにしていくということであるが、まず一度総括してほしい。あの長い時間かけて審議して何だったのかというのが、正直な気持ちです。それと、わかりやすい計画にするというのはもったもですが、周知徹底していくことに関して、県民の生活レベルに合わせた広報の仕方があるかと思います。県が環境アドバイザーなどを委嘱しているが、その人たちが本当に環境基本計画を頭に入れてアドバイザーとして派遣されているかと言えばどうもそういう感じもないように思えます。広く市民の人に行くところにわかりやすいパンフレット、生活レベルでのライフスタイルのパンフレットを平成9年につくったが、広く活用されていない、誰が活用するかというと、アドバイザーであったり県が委嘱されている委員であったりだろうと思います。誰がどこへ広報していくのか、いろいろな広報の仕方があるので、きちっと整理していなければならない。ホームページに出しましたでは難しいと思います。県民に広く周知するため新聞に出しましたでは、本当にひとつずつ30人、40人のグループにでもコツコツPRしていく、その辺をよりきめ細やかにしていく必要があると思います。

(事務局)

まさにそのとおりでございます。今財政状況が厳しいということで、ホームページに頼りきっている部分が非常に多いのですが、私の知り合いでは74才でパソコン教室の先生をしている人もいますが、そういう人は非常に特異な存在で、お金の問題もあるが、簡単なパンフレットを作ってシルバー大学校のようところで勉強していただくことや、県立総合大学校でもいろんな教室とタイアップしているので、そういうところへこちらから出掛けて説明して、意見もいただくような仕組みも考えていきたいと思っています。

(事務局)

今の現状把握ですが、25年目標ということで、今の段階でどこまで整理できるかわかりませんが、一度事務局で整理して、まず新しいことを考える上で、今どういう状況であるかが重要であるので、本日資料をつけられなくて申し訳ありませんが、次回は資料を添付できるように考えていきたいと思っています。

(委員)

今の話の関連で、全て手間をかけて目標を設定されていると思いますが、全て根拠があることだと思います。例えば18年度に一度目標を設定しているが、その時に全ての検証ができていくかどうかをお伺いしたい。中間の目標がある

のを、やはり一度どれができてどれができていないかを含めて検証しておかなければ、ただムダな中間目標になってしまうと思います。おそらくこれまでに調べられているのではないかと思います。全部はなくても、これは困難で目標設定する必要がないならしなくてもよいし、やはり県民としては、目標値として、客観的数値が必要だと思います。もっとがんばろうとか、もう少しここが足りないと思うことができるので、子どもから大人まで、数値が一番重要なところであるので、客観評価という意味では、数値はあるべきで、残すところは残していただきたいと思います。せっかく全部18年度目標があるので、時間がたっているのですが、25年度まで待つのでなくて、一度中間的な状況を調べていただきたいと思います。細かく数が多く進捗管理が困難であると言われれば作られた方の努力もムダになってしまい、フィードバックされる側では「あれ」という感じになってしまうと思いますので、そのあたりをお願いします。

(事務局)

数値自体、現状数値は実は毎年環境白書で整理して出していますので、中間の目標の達成状況も含めて整理し直したいと思います。

(部会長)

評価というのは見方によれば後ろ向きというイメージがあるが、絶対前向きな作業と考えていただきたい。労力はかかり大変と思いますが、表面上の数値について、何故というところで、ぜひうまくいっているところは何故、問題があるところは何故かといういろいろな理由がありますので、評価は次に良くするためのステップとしてやっていただきたいと思います。できないものもあると思いますので、臨機応変に、知事も進化する計画として言われてますので、是非やっていただきたいと思います。今回は、たまたま期限があってやり変えるのですが、いいタイミングということでもよろしくお願いします。

(委員)

評価の話があったのですが、評価をするには、まず計画を立てて、PRをして、みんなが行動を起こして結果が出たことになるが、誰がやったことか、私、徳島市の者ですが、市がやったことはまとめやすいのですが、それぞれの責務、県、市町村、事業者、県民の責務、それぞれの評価をする方法が難しいと思います。それぞれにPRをして、どう実践していくかということが、どのようにできているか、どのようにすれば良いかが大事になってくると思います。企業の方にPRして企業の方の実践度を把握する方法は難しいと思います。まずは、県の計画ができた際に市の役割は何かということでも考えていくようになるの

で、市も独自の計画を持っているので、相関性をどのようにとったら良いかが大事なことで、県としてひとつの方向に持って行けるような計画を一緒に考えて行ければと思います。なので、この評価というのは非常に難しいと思いますので、中間的にまとめられたりしているのは実際どのようにされているのか、教えていただきたい。

(事務局)

今の計画の目標は非常に数が多いです。かなり綿密にしており、それぞれの数値の代表的なものを全体の指標みたいなかたちにしています。実際これまでの反省になるのですが、評価というものが難しく、なかなか把握できない部分もありますし、逆に数値的に表し易い部分もあります。実は、そこらあたりの、今後新しい計画の評価指標をどのようにするのか、私も迷っているところがあります。あまりに目標を多くしすぎると目的が目標みたいになってしまっていて全体が見えなくなってしまう。また、あまり簡単にしすぎるとそれぞれの進捗状況が見えなくなってしまうところもあるので、そのあたりをどの程度のもので、どのくらいの評価にするかをご相談したいところであります。確かに、特に企業がやられていること、市町村がやられていること、県がやっていくこと、それぞれ、どう評価していくのか、企業の場合はアンケート調査みたいなかたちでする場合がありますし、市町村に照会をかけるようなやり方もあります。そのようなかたちで良いかどうか、会長がおっしゃられたように原因分析がどこまでできるのかというあたりも含めて、評価の指標をどう置いて、それをどうに活用して、どう役立てていくというところがなかなか難しいところで、まだ整理しきれていないところが正直なところで、ぜひそのあたりについても御意見を賜ればと思います。

(事務局)

私どもの方も他にいろいろな計画を持っています。例えば、いけるよ！徳島・行動計画であれば、数値目標を掲げて何年にいくらの目標をいうものがあります。これはやはり、県の施策であれば、いろいろな関係課に照会をかければ数値は出てきます。ただおっしゃられたように、事業者であるとか、個人であるとかについては、どういう風に、今の計画を評価しているかはなかなか難しいと思います。ありきたりなことですが、他県のやり方を研究しても良いのではと思います。いずれにせよ評価をしてみなければ、次の計画を立てる際に前の計画のどの部分が難しかったのか、それを調べないといけないと次の計画は立てられないと思いますので、どこまでできるかわかりませんが、がんばってみたいと思います。

(部会長)

作業していただいて、また小委員会でお示しいただいて、意見をいただくところからスタートかなと思います。

(部会長)

基本計画のつくり方・あり方を含めてなんでも結構ですので、次回からは小委員会の活動になり、ワーキングという形で頭をつっこんだ議論になりますので、御意見をいただければと思います。

(委員)

これは実際どういうかたちになるのか、私もみえていない部分はあるのですが、先ほどの総会でも出てきましたが、広報・周知、それからもうひとつは、実際に企業なりあるいは個人なり、いろんな関係者が計画に応じて何かをする、一種の環境配慮行動をする、CO₂の削減をやる。そのためのインセンティブみたいなものをどういう風なしかけを作っていくかということが、実行性を担保するうえでは、やはり、この計画に盛り込むべきか盛り込まないべきかよくわからないのですが、県民に周知して終わりではなくて、県民がやらされてる感覚ではなく、むしろ積極的に県民がいろいろなレベルで関わっていきけるようなしかけをひょっとしてこの基本計画の中に入れてもいいのではないかと思います。これはできるかできないかわかりませんが、税の減免措置を含めた、あるいはその報償制度、あるいは、ネガティブインセンティブ、罰則というのはきついのですけれども。あるいは、今日アフリカのルワンダのプロジェクトの話を午前中していたのですけれども、例えばあの国では、個人ひとりひとりが、家の前をきれいにしますなど、英語でいうパフォーマンスコントラクト、実行宣言をする。紙で書いたものを日本でいえば町内会の会長さんを集めて、その年度の終わりに本当にやりましたかという話で、国民ひとりひとりがその話をする。あるいはそこまでいなくても例えば県がグループでやるなど、環境基本計画に私たちのグループはコミットしますみたいな宣言、こういったことをしますなど、年度の間、あるいは最後に、それくらい達成できたかということで、あるいは、報償制度や表彰をする。など、もうひとつきめ細かな、実行感を担保する施策ができてくれれば良いかな。これは思いつきみたいなアイデアですけれども、そういったものの大枠みたいなものをこの中に含められたら。つまり、こういうかたちで県民が本当に実体的に計画の実施に参画する仕組みをつくっていくということを計画でうたっておくことが必要ではないかという気がしました。

(部会長)

確かにそうと思います。計画を作りましたら、ゴールはやっぱり、徳島県の環境を良くする。ひらたく言えばですけれども、いろいろな環境分野があって、皆さんがアクションを起こして、目に見えて味わう、実感する。基本計画にどう書いていくかが次の議論となりますが、既に個別がありますので、個別の計画をやる時に基本計画に経済政策を考えましようとしていけば入れやすいでしょうか。あるいは先ほどのネガティブもありますよみたいなことを、具体的には書きにくいと思いますが、それは個別に書いてもらうなど、それは議論になると思います。

(事務局)

たしかにインセンティブは大事だと思います。今やっているのがカーボンオフセットの話などがあります。例えば生物多様性を進める中で滋賀銀行がものすごく熱心にやっている。琵琶湖を守るということで、企業のイメージが上がるということでやっている。私どもも具体策として企業の応援をいただかないと財政上できないということがでてきている。おっしゃるとおり、環境基本計画の中で大きいストーリーの部分があれば良いなと思います。

(委員)

今思ったのですが、話がずれていけばすみません。環境基本計画を県民に広く周知していくにあたって、「環境基本計画」という言い方がものすごく固くて、私はこれを聞いただけで「もういいわ」という感じになります。基本計画なんですけれども、広く県民にこれからパブリックコメントを求めていく中でもうちょっと親しみやすく、愛称的なもの、エコなことをしていることで、環境基本計画の中身の何かをやっていることになり、浸透していくきっかけになれば良いのではと思います。公募してみるなど。

(事務局)

本当にそのとおりで、環境基本計画と聞いたら、ある程度の年いった方やあるいは子どもさんであれば、これを読もうかという気にはならないと思う。おっしゃるとおり愛称的なようなもの、委員の皆様アイデアを出していただいてパブリックコメントの時に投票していただくなどの仕組みで、環境基本計画というのではなくて、愛称的なものはほしいなと思っています。

(委員)

私も思うのですが、表彰制度が良いかなと思い、中心から町内会、学校に続

くようなシステムを作っておいて、そこでごんばったところには表彰状1枚でも良いと思いますので、あればみんながやろうという気になるのではないかと思います。もう1点は数値がたくさん出ているが、現状値というのがあるので、平成18年度もあるはずと思うのです。それを出してもらう必要があります。元があるので、それは絶対にどこかで出てくるあるはずだと思います。25年は出てないにせよ、18年は出てくるはずですので、そのあたりをよろしく願います。

(部会長)

最初にスケジュールをいただきましたが、もう少し詳しいスケジュール、小委員会を月1回などのプランを作っておられるのでしょうか。政策部会をどのタイミングでやるか、もちろんそこまで考えていなければいいのですが。皆さんの心づもりを、特に、大学の先生は1月、2月は非常に忙しいので。

(事務局)

具体的にこれから県の方で素案を作っていく段階ですので、素案がある程度まとまった段階で、年度内に1回くらいは開きたいと考えています。

(部会長)

評価のデータも示さないといけないので、それくらいで、日程調整をしていただくということでよろしく願います。

(部会長)

その他ということで、基本計画以外のことでも良いので、ございませんか。

—特になし—

(部会長)

それでは委員の皆さんはそれでよろしいと思いますので、後は事務局から何かございませんか。

(事務局)

特にございません。

(部会長)

先ほど確認させていただきましたが、今後の部会、小委員会は事務局と相

談しながら進めていきたいと思ひます。これをもちまして、環境政策部会を終了します。議事の進行に御協力いただきありがとうございました。

(事務局)

閉会の連絡

(環境総局長)

あいさつ